

## 令和5（2023）年度 （芸術科） 教育指導計画

### （1）科目の配当・分担表

（必修 ◎，選択必修 ○，選択 △） （非常勤講師：\*）

学 年	科 目 名	必修・選択	単位数	クラス数	時数	担当者名
I	音楽 I	○	2	2	2	古川 裕介 米谷 優*
I	美術 I	○	2	1	2	向井 優馬*
I	書道 I	○	2	1	2	塔筋 真美*
II	音楽 II	○	1	2	1	古川 裕介 米谷 優*
II	美術 II	○	1	1	1	向井 優馬*
II	書道 II	○	1	1	1	塔筋 真美*

(2) 指導計画表

科目名：音楽Ⅰ	学年：第Ⅰ学年	単位数：2	担当者名：古川 裕介 米谷 優
<p><b>1. 指導目標</b></p> <p>○歌唱・器楽 歌唱・器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱・器楽表現を創意工夫すること。</p> <p>○鑑賞 鑑賞に関わる知識を得たりしながら、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。</p> <p>以上の目標を達成すべく、他者と協働して音楽活動に取り組むことを通して、特に本校では以下のような資質・能力を高めていきたい。</p> <p>①感性を高める (…自分や他者の小さな変化に気づくことができる)</p> <p>②人をいたわり思いやりの心をもつ雰囲気醸成 (…集団で1つの音楽作品を仕上げる経験を通して、互いを尊重しつつも対等に意見を述べることのできる豊かな人間関係を構築する)</p> <p>③ファシリテーション能力を高める (将来、組織のリーダーとして活躍するために)</p> <p><b>2. 評価観点</b></p> <p>ア 知識・技能 音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な技能を身に付け、創造的に表している。</p> <p>イ 思考・判断・表現 ・音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、表現意図をもっている。 ・音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲や演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。</p> <p>ウ 主体的に学習に取り組む態度 音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽活動の喜びを味わい、音や音楽を生活や社会に生かそうとし、主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習に取り組もうとしている。</p>		<p><b>3. 指導方法</b> 選択生による2クラス編成を、講師と同時展開で行う。実技実習中心の授業を行う。</p> <p><b>4. 評価方法</b></p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実技テスト</li><li>・演奏発表</li></ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ワークシート</li><li>・演奏振り返りシート</li><li>・レポート</li></ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ワークシート</li><li>・学習活動に対する主体的・協働的な取り組み</li></ul> <p><b>5. 年間計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○附高校歌 《斉唱》 発声の基本を習得する</li><li>○ボディーパーカッション作品</li><li>○独唱・重唱作品</li><li>○海外の合唱作品</li><li>○日本の合唱作品</li><li>○ポピュラー音楽</li><li>○グループでの演奏発表</li></ul> <p>※曲目は各クラスの実情を踏まえ、各担当教員により適宜アサイン。 ※授業で扱う歌唱作品に関連する鑑賞領域の学習を適宜実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○音楽選択生による発表会（時期は未定）</li></ul>	
使用教科書：MOUSA1（教育芸術社）			

科目名：音楽Ⅱ	学年：第Ⅱ学年	単位数：1	担当者名：古川 裕介 米谷 優
<p><b>1. 指導目標</b></p> <p>○歌唱 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに歌唱表現を創意工夫すること。</p> <p>○鑑賞 鑑賞に関わる知識を得たりしながら、音楽のよさや美しさを深く味わって聴くこと。</p> <p>音楽Ⅰで学習したことを踏まえ、西洋音楽史の系譜をたどりながら、より高度で豊かな表現力を学ぶ。創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な以下の技能を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲にふさわしい声楽的な発声法・身体の使い方</li> <li>・他者との調和（ハーモニー）を意識して歌う技能</li> <li>・表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う技能（それぞれの場面における各声部の役割を把握する等のスコアリーディングを実施する。）</li> </ul> <p><b>2. 評価観点</b></p> <p>ア 知識・技能 音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な技能を身に付け、創造的に表している。</p> <p>イ 思考・判断・表現 ・音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、表現意図をもっている。 ・音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲や演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。</p> <p>ウ 主体的に学習に取り組む態度 音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽活動の喜びを味わい、音や音楽を生活や社会に生かそうとし、主体的・協働的に歌唱や創作、鑑賞の学習に取り組もうとしている。</p>		<p><b>3. 指導方法</b> 選択生による2クラス編成を、講師と同時展開で行う。実技実習中心の授業を行う。</p> <p><b>4. 評価方法</b></p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技テスト</li> <li>・演奏発表</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・演奏振り返りシート</li> <li>・レポート</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・学習活動に対する主体的・協働的な取り組み</li> </ul> <p><b>5. 年間計画</b></p> <p>○バロックの音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・G. F. ヘンデル オラトリオ「メサイア」より “Hallelujah” ハレルヤ</li> <li>・J. S. バッハ 「心と口と行いと生活で」より 第10曲コラール “Jesus bleibet meine Freude” 主よ、人の望みの喜びよ</li> </ul> <p>○古典派の音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・W. A. モーツァルト 「レクイエム」より “Lacrimosa” 涙の日 “Domine Jesu” 主イエス</li> </ul> <p>○ロマン派の音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・F. シューベルト ミサ曲 第2番 ト長調より “Gloria” 栄光あれ</li> </ul> <p>○現代の音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・C. オルフ 「カルミナ・ブラーナ」より “O Fortuna” おお、運命の女神よ</li> </ul> <p>○音楽選択生による発表会（時期は未定）</p>	
使用教科書：MOUSA 2（教育芸術社）			

科目名：美術 I	学年：第 I 学年	単位数：2	担当者名：向井 優馬
<p><b>1. 指導目標</b> 美術の実習活動を通して自己や他者との向き合い方の手段の多さを感じ取る。一つの事象をあらゆる方面から見つめなおすことにより、様々な観点から考察できるような人間性を養う。 中学時代から学んだ技術、技法を自己の目指す表現に向けて選択し、より発展させたものを目指す。</p> <p><b>2. 評価観点</b> (1)美術の創作活動の喜びを味わい主体的に表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組む。 (2)感性や想像力を働かせて独創的な創作活動を行うことができる。 (3)選択した表現に必要な技術を身につけ、場面に応じた工夫を凝らすことができる。 (4)出席や提出物、授業内での参加態度など、意識的に取り組む姿勢ができています。</p> <p><b>3. 指導方法</b> 「表現する」ことに慣れるための起点として、製図や線描の活動からものを形作る見方、考え方を学ぶ。表現するための技法や工夫について、生徒個々のアプローチに寄り添い考えさせる。教室全体を見ることを心がけ、積極的な机間指導を行う。 生徒の実習においてぶつかる問題を自分の問題として解決できるよう導き、充実した活動を行えるように指導する。 また活動を通してコミュニケーションや自己の意見を述べる際の幅を広げられることを生徒に気付かせ、何か新しい物を得ることができるように授業を行う。</p> <p><b>4. 評価方法</b> 【知識・技能】 技術や技法を工夫して向上させる取り組みができていたか。 【思考・判断・表現】 生徒自身の感性や想像力を働かせた制作をすることができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 意欲的に創作活動に取り組むことができたか。 忘れ物や授業態度、主に学期末の作品提出は十分であったか。</p>		<p><b>5. 年間計画</b> 【デザイン・平面作品】斜方眼紙を用いた、立体図面の描画及び色彩表現  【平面作品】線の集積を用いた自画像の制作  【立体作品】地学教育と連携したヴェロキラプトルの復元図をもとにした作品制作（予定）  【鑑賞】社会における美術館や展示についての学習  【デザイン・立体作品】連続模様を構成してデザインするペーパーレリーフの制作  【平面作品】漫画的表現を用いた平面構成</p> <p>1年間のまとめ</p> <p>※美術・書道選択生による展覧会</p>	
使用教科書：高校美術1(日本文教)			

科目名：美術Ⅱ	学年：第Ⅱ学年	単位数：1	担当者名：向井 優馬
<p><b>1. 指導目標</b> 美術の幅広い創作活動を通して、より発展した独自の表現を探る。実習を重ねることにより新たな表現と出会い、感性を伸ばす。 鑑賞や実習で美術に対する理解を深め、さらに日常の考え方のプロセスなどにも繋げられるようにする。</p> <p><b>2. 評価観点</b> (1)美術の創作活動の喜びを味わい主体的に表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組む。 (2)感性や想像力を働かせて独創的な創作活動を行うことができる。 (3)選択した表現に必要な技術を身につけ、場面に応じた工夫を凝らすことができる。 (4)出席や提出物、授業内での参加態度など、意識的に取り組む姿勢ができています。</p> <p><b>3. 指導方法</b> より表現の自由度が高い課題において、いかに生徒個々の創意工夫が行えるか、自主性を重んじつつ、机間指導を徹底し、つまづいている生徒に対しては寄り添って解決出来るようにする。</p> <p><b>4. 評価方法</b> 【知識・技能】 技術や技法を工夫して向上させる取り組みができていたか。 【思考・判断・表現】 生徒自身の感性や想像力を働かせた制作をすることができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 意欲的に創作活動に取り組むことができたか。 忘れ物や授業態度、主に学期末の作品提出は十分であったか。</p>		<p><b>5. 年間計画</b> 【立体作品】張り子の技法を用いた装飾用マスクの制作 【平面作品】古典的漫画・イラスト表現を用いた自分の表現 【工芸】ステンシルを用いて彩色するエコバッグの制作 【鑑賞】現代美術の鑑賞 【現代美術】近現代のさまざまな現代美術の考え方に触れ、ワークショップ形式でアプローチする 1年間のまとめ ※美術・書道選択生による展覧会</p>	
使用教科書：高校美術2(日本文教)			

科目名：書道 I	学年：第 I 学年	単位数：2	担当者名：塔筋 真美
<p><b>1. 指導目標</b></p> <p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のおよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書のおよさを味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p> <p><b>2. 評価観点</b></p> <p>a. 知識・技能</p> <p>b. 思考・判断・表現</p> <p>c. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p><b>3. 指導方法</b></p> <p>今までの書体験、環境に大きな差があるため、実技では、机間巡視により個々への指導を細かくする。理論では、歴史や文学にも興味を持ってもらえるよう導く。</p> <p><b>4. 評価方法</b></p> <p>【知識・技能】 作品やワークシートなどの提出物</p> <p>【思考・判断・表現】 作品やワークシートなどの提出物</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度や課題に取り組む姿勢 欠課・遅刻・忘れ物等の有無</p>		<p><b>5. 年間計画</b></p> <p>&lt; 1 学期 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>楷書の臨書を通して、書表現の基本となる用筆・運筆を学ぶ。 (筆圧・遅速・墨量による趣の違い等)</li> <li>中国唐代に完成された楷書の多様な美に触れ、書表現の奥深さに興味を向ける。</li> <li>学習した楷書の古典の中からひとつを選び、半切臨書作品を制作。(「国際高校生選抜書展」に出品)</li> </ul> <p>&lt; 2 学期 &gt;</p> <p>五書体のうち、楷書以外の残りの行書・草書・隸書・篆書を一通り学び、様々な書表現があることを知る。まとめとして、漢字二文字(書体自由)の創作と鑑賞会。</p> <p>&lt; 3 学期 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>篆書の学びを受け、姓名印を作る。</li> <li>仮名の学習を通して、日本文化の良さを発見する。</li> </ul> <p>※美術・書道選択生による展覧会</p>	
使用教科書：書 I (光村図書)			

科目名：書道Ⅱ	学年：第Ⅱ学年	単位数：1	担当者名：塔筋 真美
<p><b>1. 指導目標</b></p> <p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のおよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書のおよさを味わい深く捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p> <p><b>2. 評価観点</b></p> <p>a. 知識・技能</p> <p>b. 思考・判断・表現</p> <p>c. 主体的に学習に取り組む態度</p> <p><b>3. 指導方法</b></p> <p>時間数が少ないので、技術的向上より、各自が書に親しみ、達成感を得られるよう支援する。</p> <p><b>4. 評価方法</b></p> <p>【知識・技能】 作品やワークシートなどの提出物</p> <p>【思考・判断・表現】 作品やワークシートなどの提出物</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業態度や課題に取り組む姿勢 欠課・遅刻・忘れ物等の有無</p>		<p><b>5. 年間計画</b></p> <p>&lt;1・2学期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮名古筆の書風の違いを学び、創作では伝統的な形式(色紙・短冊・扇面等)でも試みる。</li> <li>・文字の始まりである篆書から隸書へと時代を追って学びながら、書道Ⅰでの篆・隸の学習をさらに発展させ、書の幅広い世界を味わう。</li> <li>・行書・草書に関しては、作品づくりにおける様々な表現の要素を意識し、より完成度の高い作品づくりを目指す。</li> <li>・半切臨書作品制作。(「国際高校生選抜書展」に出品)</li> </ul> <p>&lt;3学期&gt;</p> <p>「漢字仮名交じりの書」の創作と鑑賞。絵手紙風の作品にもチャレンジ。2年間のまとめとして、色紙作品を仕上げる。</p> <p>※美術・書道選択生による展覧会</p>	
使用教科書：書Ⅱ（光村図書）			